

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	I期臨床的肺癌に対する体幹部定位放射線治療の治療成績の検討
研究責任者	放射線腫瘍科 野中哲生
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>近年、組織診断がない早期臨床的肺癌に対する体幹部定位放射線治療(SBRT)を施行する機会が増加しつつあります。肺癌学会肺癌診療ガイドラインでは、2021年版で臨床的に肺癌と診断された孤立性肺腫瘍に対する放射線治療のCQがはじめて策定されました。しかしながら、本疾患については十分なエビデンスが蓄積されているとはいえないことから、放射線治療を行うよう勧めるだけの根拠が明確でないこととされ、推奨度決定不能であると結論されています。</p> <p>したがって本疾患に対する治療成績を検討することは、われわれにとって急務であると思われ、少ない症例数でもその治療内容や治療成績を検討することは重要であると考えられます。本研究では当センターで施行されたI期の臨床的肺癌に対するSBRTの安全性および有効性を後方視的に検討することを目的としています。</p>
研究方法	<p>本研究は後向き研究であり、すでに診断あるいは治療が行われた症例の治療内容および結果について検討を行います。</p> <p>具体的には2020年5月から2022年3月までに年齢や合併症、腫瘍の局在などが原因で組織診断が得られない孤立性肺腫瘍の症例を対象とし、診断にはPET/CTにおけるFDG集積の程度およびCTでの経時的な腫瘍径の変化ならびに形態の変化を検討し、さらに喫煙歴等の臨床データから呼吸器合同カンファレンスで臨床的肺癌と診断した症例を解析します。治療は当院に導入されているサイバーナイフを用いて、48Gy/4回の治療を基本方針としています(日常の診療で用いられている放射線治療の線量・分割となります)。</p> <p>有効性については局所(照射野)無増悪生存割合のほか非遠隔転移生存割合、全生存割合について、また、安全性については放射線肺臓炎や心毒性、肋骨骨折などの遅発性有害事象を中心に検討を行います。</p> <p>この研究ではすでに治療が行われた患者さんを対象にしているため、患者さんにあらたな負担がかかることはありません。また、個人名を消去しその代わりに番号などを付与することによって、個人が特定できないように処理し解析を行います。その結果については放射線治療や肺癌に関する学会や論文で公表されることがあります。この研究への登録を希望されない場合は下記問い合わせ先にご連絡ください。</p>
研究解析期間	2027年3月31日まで
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：放射線腫瘍科 野中哲生 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>